

## こよみ



2009年10月30日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.10

分配金利回り

「分配金利回り」だけを見て、  
ファンドを選んで大丈夫!?

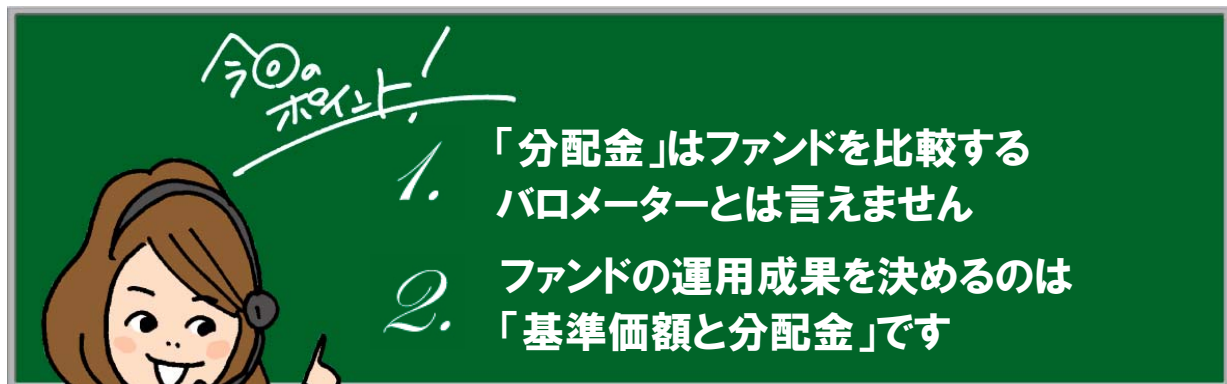
当社には毎月分配型のファンドが数多くあります。なかでも、できる限り一定額の分配金を続けていくことをめざす「安定分配型」が多くを占めます。最近、毎月の分配金が変わらないということを期待して、“分配金利回り”をファンド選びの材料にする方が多いように感じます。でも本当に“分配金利回り”でファンドの運用状況を見ることができのでしょうか。

そこで今回皆さまには、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 「分配金」はファンドを比較するバロメーターとは言えません
2. ファンドの運用成果を決めるのは「基準価額と分配金」です



コールセンターからの小さなよみもの



## 1. 「分配金」はファンドを比較するバロメーターとは言えません

ファンドの運用期間中には、大きく値上がり益が得られるときや、そうではないときなど、様々な相場変動が起こるでしょう。ファンドが得た収益に合わせて分配金を変えていくことも分配金の出し方のひとつです。

一方、「安定した分配を行なうこと」を特徴にしているファンドでは、基本的にできる限り一定の分配金を続けようとしています。つまり、会計上のルールの中で、収益を多く得られたときには、その一部をファンドの運用資産として残し、逆に得られる収益が少ないときには、ファンドの運用資産から付け加えるなどして、「安定した分配」を行なっていると考えられます。

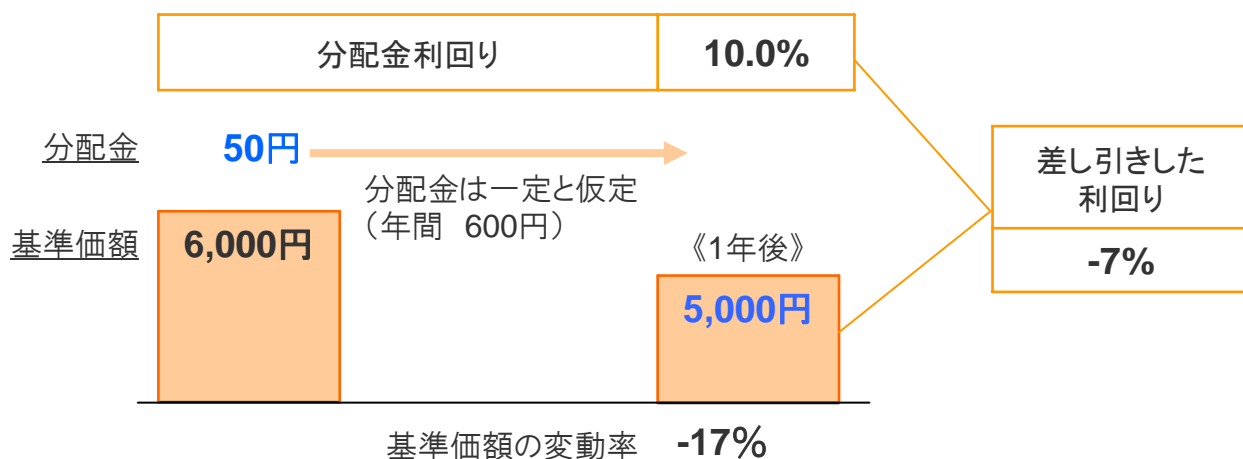
この現在の分配金を年額に換算し(毎月決算なら×12)、現在の基準価額で割った「分配金利回り」で運用成果がはかれると考えている方が多いようですが、私たちは何だか違和感を覚えます。なぜなら毎日変動する基準価額を、現在の一時点で1年間固定して利回りを計算しているからです。



コールセンターからの小さなよみもの

当然、基準価額はファンドの運用資産である株式や債券などの時価評価が変わることで、毎日変動します。つまり、基準価額が下がることによって分配金利回りは上がり、基準価額が上がることで分配金利回りが下がるといったように、基準価額によって分配金利回りも変動するのです。

実際に計算をした翌日にでも基準価額が下がれば、分配金利回りは上がることになります。だからといって1日でファンドのチカラが急に高まるわけではないことは、お分かりいただけると思います。



※分配金利回り = 1年間で見込める分配金の合計 ÷ 計算時点の基準価額 × 100

※基準価額の変動率(騰落率) = 対象期間末の基準価額 ÷ 対象期間初めの基準価額 - 1

上の図のように分配金利回り10%を期待して6,000円の基準価額のとときファンドを購入したとしたら、分配金が変わらなければ購入金額に対する10%の分配金は確かに受け取れます。しかし、例えば基準価額が6,000円から5,000円に値下がりすると、購入金額は約17%目減りし、受け取った分配金と基準価額の値下がり分を差し引きした利回りは、約-7%になります。

つまり、基準価額の値下がりによって、当初見込んでいた分配金利回りと本当のファンドの利回りが異なってくるのです。



コールセンターからの小さなよみもの

## 2. ファンドの運用成果を決めるのは「基準価額と分配金」です

ファンドの運用成果を知るには、分配金だけではなく、基準価額も見なければいけません。

基準価額とは、ファンドの運用資産を日々時価評価したものであり、そこには株式や債券などのファンドの資産から得られた配当金や利息などもすべて含まれています。

分配金は、それら運用資産から発生する収益や損失のすべてである純資産総額の一部を切り出しているに過ぎません。例えば分配金が変わらなかったとしても、基準価額が上昇したのであれば、そのときは「分配金」と「基準価額の上昇分」がファンドから得られた運用成果となるのです。

つまり、基準価額と分配金とを合わせて見ないことには、本当の“ファンドのチカラ”を知ることはできないのです。「分配金利回り」の高さだけでなく、投資対象の将来性についてしっかり考えることの重要性を、いま改めてお伝えしたいと思います。

ご不明な点、気になる点などがありましたら、ぜひ日興AMコールセンターまでお問い合わせください。

**nikko am**



コールセンター

**0120-25-1404**

営業時間 平日 9:00~17:00

